

# 漏電火災警報器用試験器 RGR - 1 形 取扱説明書

この度は、漏電火災警報器用試験器 RGR - 1 をお買いあげいただき誠にありがとうございます。本試験器を正しくお使いいただくために、ご使用になる前に本取扱説明書を熟読し、使用方法を理解してから漏電火災警報器の試験を行って下さい。本取扱説明書は、試験器と一緒に大切に保管して下さい。

製品がお手元に届きましたら、破損などの異常がないかご確認下さい。万一、同梱品の不足や、破損あるいは仕様どおりに動作しない場合は、お買いあげの販売店様または弊社宛にご連絡下さい。



## 同梱品

- ・本体（AC100V用電源コード付属 1.5m）
- ・出力電流コード（2m クリップ付）
- ・取扱説明書（本書です）
- ・保証書
- ・漏電火災警報器設備点検票（別記様式第12）
- （オプション品のキャリングケースは別梱包となります）

## 安全上のご注意

本試験器を正しくご使用いただくために、ご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みになり、使用方法を十分理解してから試験を行って下さい。

この取扱説明書では、安全注意事項のランクを次のように「危険」「注意」と区別してあります。

|   |  |
|---|--|
|  <b>危険</b>  | 絶対に行ってはいけないことを記載しています。この表示の注意事項を守らないと、感電や重い火傷を受ける可能性が想定される場合 |
|  <b>注意</b> | 取扱を誤った場合、感電や軽い火傷等の危険を受ける可能性および、物的損害のみの発生が想定される場合             |

「注意」に記載した内容でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性がありますので、記載内容は必ず、守って下さい。

## 危険

感電のおそれがあります。

- ・本試験器を落下させたり、ケースの内部に水やコーヒーなどの液体が侵入した場合は、直ちに使用を中止して下さい。
- ・測定中は、周囲の充電部に触れないよう十分注意して下さい。

## 注意

焼損・火傷のおそれがあります。

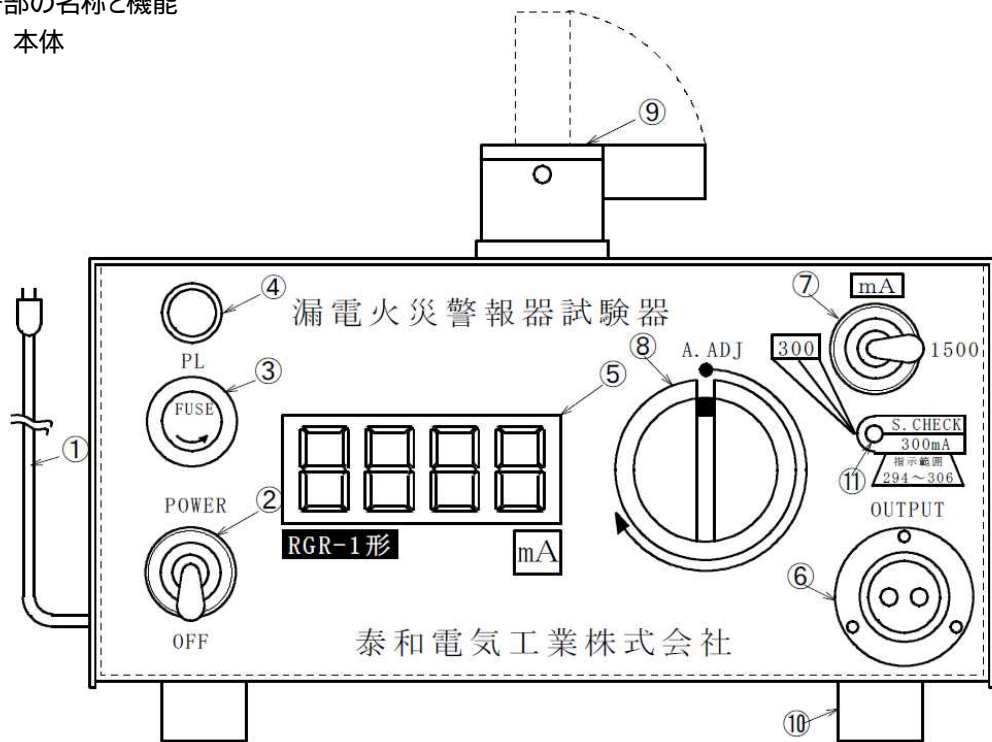
- ・異常な発熱、におい、煙などが生じた場合は、直ちに使用を中止し、電源プラグを抜いて下さい。
  - ・故障のおそれがあります。
  - ・出力用リード線に別の電源を接続しないで下さい。
  - ・本体を分解しないで下さい。
  - ・次のような所を避けて保管して下さい。
- 温度の高い場所、湿気の多い場所、直射日光の当たる場所、振動・衝撃の大きい場所、ほこりや塩分・腐蝕性ガスのある場所

## 1. 試験器の概要

1級および2級の漏電火災警報器は、消防法により定期的な試験を行うことが義務づけられています。本試験器を使用することにより、漏電火災警報器が取り付けられている現場で、定められた試験を簡便に実施することが出来ます。試験器に制御電源（AC100V）を接続し、付属されている出力用リード線を漏電火災警報器用の零相変流器（ZCT）にくぐらせて先端のクリップを接続してから、試験器本体のボリュームを回して、漏電火災警報器が動作した電流値を読み取ります。

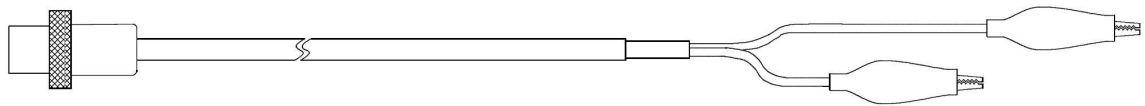
2. 各部の名称と機能

2.1 本体



| No. | 名 称         | 機 能                              |
|-----|-------------|----------------------------------|
|     | 電源コード       | AC100Vコンセントに接続します。               |
|     | 電源スイッチ      | 電源を ON - OFF します。                |
|     | ヒューズホルダー    | 過電流を保護します。ミゼットガラス管ヒューズ 0.5A      |
|     | 電源表示灯       | 電源が活きている時に赤く点灯します。電流出力が有効となります。  |
|     | 表示器         | 出力電流の大きさを4桁で表示します。単位はmAです。       |
|     | 電流出力コネクタ    | 専用の出力用リード線を接続します。                |
|     | 電流レンジ切替スイッチ | 出力電流 300mA / 1500mA レンジの切替を行います。 |
|     | 電流設定つまみ     | 出力電流を可変出来ます。                     |
|     | 取手          | 試験器を持ち運ぶ時に使用します。90 度回転できます。      |
|     | 足           | プラスチック製の足4個で、本体を支えます。            |
|     | 自己チェックボタン   | 試験器の機能を確認する時に押します。               |

2.2 出力用リード線



零相変流器 (ZCT) に電流を流すために使用します。先端には専用の赤クリップと黒クリップが接続されています。リード線の長さは、約2mです。

3. 使用方法

3.1 測定の前に

(1) 負荷回路の対応

負荷回路が接続されたままとなっていると、負荷のアンバランス電流や、負荷回路の絶縁低下による漏れ電流分と試験器から流す試験電流が、合算された電流で漏電火災警報器が動作します。作動試験電流の誤差が増大する要因となりますので、測定の際は出来るだけ電源側 部分または、負荷側 1 ~ n 部分全て の何れかを開放してから実施することをお奨めします。

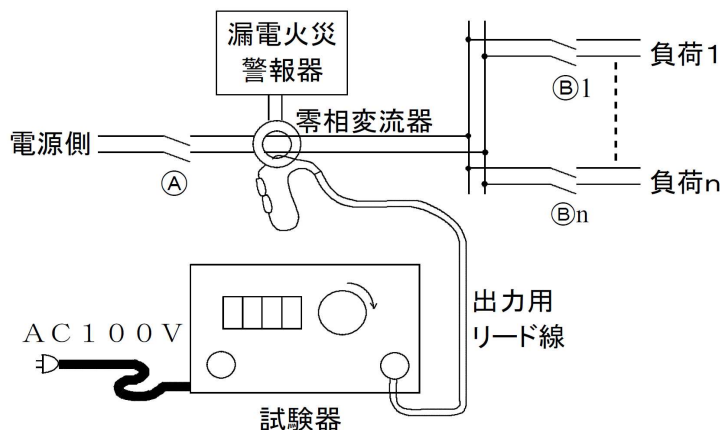
(2) 自己チェックの実施

自己チェック (詳細は 5. 自己チェック機能の項をご参照下さい) を実施し、試験器が正常に機能することを確認してから測定を始めることをお奨めします。

### 3.2 測定方法

次の手順により測定を行います。

- (1) 出力用リード線を本体のコネクタに接続します。
- (2) 次に、リード線先端のクリップ付リード線の一方を零相変流器(ZCT)の貫通孔に通してから、赤クリップと黒クリップをつなぎます。
- (3) 電源コードをAC100Vコンセントに接続します。
- (4) 電源スイッチを「ON」にし、電源表示灯が点灯することを確認します。
- (5) 電流レンジ切替スイッチにて300mAまたは1500mAを選択します。
- (6) 電流設定つまみを回して漏電火災警報器が動作することを確認します。
- (7) 漏電火災警報器が動作する最小電流値を、読み取ります。
- (8) 「漏電火災警報器設備点検票」(別記様式第12)に作動電流値(漏電火災警報器が動作する最小電流値)を記録します。
- (9) 測定が終わったら電源スイッチを「OFF」にし、電源コードをコンセントから抜いて下さい。



### 測定時の注意

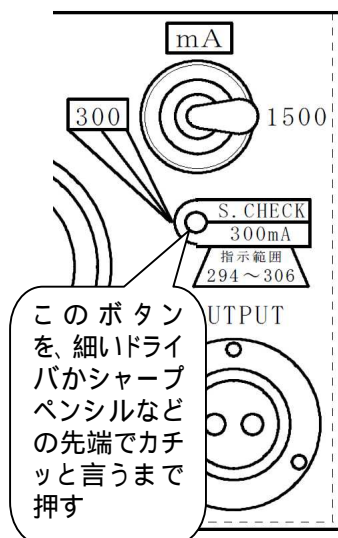
- |      |  |
|------|--|
| ⚠ 危険 | <p>1. リード線を零相変流器の貫通孔に通す時は、周囲の導電露出部に絶対触れないよう、注意して下さい。</p> <p>2. 零相変流器本体は、絶縁物で覆われていますので、触れても問題ありません。</p>   |
| ⚠ 注意 | <p>3. リード線先端の赤クリップと黒クリップはどちらを貫通孔に通しても構いません。また、通す向きは電源側からでも負荷側からでも構いません。</p> <p>4. 出力用リード線が短くて延長する必要がある場合は、0.5mm<sup>2</sup>以上の電線で10m程度までとして下さい。それ以上の長さになると、出力電流が不足することがあります。(表示値は正しい電流値を示しますが、最大値電流まで、上がらなくなることがあります。)</p> |

### 4. 良否判定

読み取った作動電流値が次の範囲内にあれば、漏電火災警報器は正常です。(零相変流器と漏電火災警報器を組みあわされた場合の許容範囲)

|     |             |
|-----|-------------|
| 新設時 | 設定値の40～105% |
| 定検時 | 設定値の40～110% |

### 5. 自己チェック機能



試験器本体が、正常であるかどうか簡単にチェックできる機能です。次の手順で診断を行います。

出力用リード線を本体のコネクタに接続し、リード線先端の赤クリップと黒クリップをつなぎます。この時、零相変流器(ZCT)に通す必要はありません。直接クリップ同士をつないで下さい。

電源コードをAC100Vコンセントに接続します。

電源スイッチを「ON」にし、電源表示灯が点灯することを確認します。

電流レンジ切替スイッチを300mA側とします。

自己チェックボタン(「S. CHECK」ボタン)を、細いドライバかシャープペンシルなどの先端でカチッと言うまで押します。

表示が安定するまで約3秒程度押し続け、表示器の電流値を読み取ります。

#### <判定>

読み取った電流値が300mA ± 2% (294 ~ 306mA) の範囲内にあれば、試験器本体および出力用リード線は正常です。この範囲をはずれている時は、修理が必要ですので、お買いあげの販売店様または弊社宛にご連絡下さい。

## 6. 仕様

定格および性能は次の通りです。

|          |  |
|----------|--|
| 品 名      | 漏電火災警報器用試験器                              |
| 形 式      | RGR - 1                                  |
| 制 御 電 源  | AC100V $\pm$ 10V 50/60Hz共用               |
| 出力電流範囲   | 0～300mA / 0～1500mA スイッチにより切替             |
| 出力電流精度   | $\pm 2\%rdg \pm 3dgt$                    |
| 自己チェック機能 | S.CHECKボタン操作により 300mA $\pm$ 2%以内の出力      |
| 絶 縁 抵 抗  | DC500メガにて10M 以上                          |
| 絶 縁 耐 力  | AC1000V 1分間                              |
| 消 費 V A  | 30VA以下(1500mA出力時)                        |
| 使用温湿度範囲  | 5～35 45～85%RH(結露のないこと)                   |
| 外 形 寸 法  | 150W $\times$ 70H $\times$ 150D (突起物含まず) |
| 重 量      | 約 1.7 kg (付属品を含む)                        |
| ヒ ュ ー ズ  | ミゼットヒューズ(ガラス管20mm) 0.5A                  |
| 付 属 品    | 出力用リード線(2m) 先端に赤クリップと黒クリップを装着済           |
| 適 用 法 令  | 昭和50年消防庁告示第3号、昭和50年消防庁告示第14号             |

## 7. 点検の周期

漏電火災警報器は、次の周期で点検を行うことが決められております。(昭和50年消防庁告示第3号)

- \* 機器点検(機器の適正な配置、損傷等の有無その他主として外観から判別できる事項、および機能について簡易な操作により判別できる事項を確認する)

6ヶ月

(補足説明:漏電火災警報器の外観に異常がないか目視による確認と、漏電火災警報器本体に装備されているテストボタンにより、動作を確認する)

- \* 総合点検(設備の全部もしくは一部を作動させ、総合的な機能を確認する)

1年

(補足説明:本試験器により模擬漏電電流を零相変流器の1次側に流し、漏電火災警報器の作動電流値が、所定の範囲内にあることを確認する)

## 8. キャリングケース(別売り品)

オプションのキャリングケースを使用すると、試験器をこのキャリングケースに収納したまま首や肩に掛けて現場での試験を行うことができますので、現場での作業効率向上に役立ちます。

メモ記入欄

漏電火災警報器の整備(試験など)を行うには、第2種消防設備点検資格者または、乙種第7類消防設備士の資格が必要です。詳しくはお近くの消防署または、総務省消防庁にご確認下さい。  
本取扱説明書に記載の内容は、機能の向上などにより、予告無く変更する場合がありますのでご了承下さい。



泰和電気工業株式会社

TAIWA ELECTRIC INDUSTRIES CO., LTD.

|   |           |                         |  |
|---|-----------|-------------------------|--|
| 本 社   | 〒105-0013 | 東京都港区浜松町 2-6-8 伸和ビル 4 階 | TEL:03-3432-2521(代) FAX:03-3432-2527   |
| 浦 和 工 場   | 〒336-0022 | さいたま市 南 区 白 幡 2-5-26    | TEL:048-861-3131(代) FAX:048-862-1119   |
| 名古屋出張所  | 〒455-0002 | 名 古 屋 市 港 区 東 海 通 3-7   | TEL:052-661-4100(代) FAX:052-661-4107   |
| 九州出張所   | 〒815-0032 | 福 岡 市 南 区 塩 原 3-2-12    | TEL:092-511-0711(代) FAX:092-552-8475   |
| 札幌出張所   | 〒002-8008 | 札 幌 市 北 区 太 平 八 条 7-4-8 | TEL:011-772-3424(代) FAX:011-772-3424   |
| URL <a href="http://www.taiwadenki.co.jp">http://www.taiwadenki.co.jp</a> |           |                         | E-mail: <a href="mailto:info@taiwadenki.co.jp">info@taiwadenki.co.jp</a> 2007.05 |